

**製品名: PTG ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab16642**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	36kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PPP1R3C
別名	PPP1R3C; PPP1R5; Protein phosphatase 1 regulatory subunit 3C; Protein phosphatase 1 regulatory subunit 5; PP1 subunit R5; Protein targeting to glycogen; PTG
遺伝子 ID	5507.0
SwissProt ID	Q9UQK1
免疫原	抗血清はヒト PPP1R3C 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 44-93

**背景**

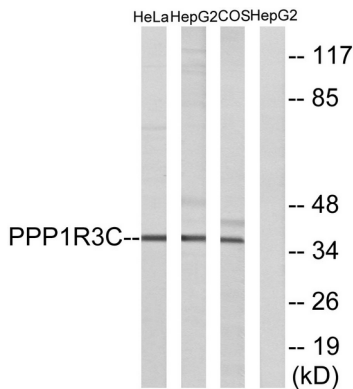
この遺伝子は、タンパク質ホスファターゼ 1 (PP1) 複合体のサブユニットである糖結合タンパク質をコードしています。PP1 は可逆

的なタンパク質リン酸化を触媒し、これは幅広い細胞活動において重要です。コードされているタンパク質は、グリコーゲン合成酵素を活性化することでグリコーゲン生成に作用し、グリコーゲンホスホリラーゼ活性を低下させることでグリコーゲン分解を抑制します。この遺伝子の DNA 高メチル化は、大腸がん患者で認められています。コードされているタンパク質は、ラフォラ病に關与するタンパク質チロシンホスファターゼであるラフォリンタンパク質とも相互作用します。 [RefSeq 提供、2016年9月],ドメイン:N末端領域は PP1 への結合に、中央領域はグリコーゲンへの結合に、C末端領域はグリコーゲンホスホリラーゼ、グリコーゲン合成酵素およびホスホリラーゼキナーゼへの結合に必要です。機能:PP1 のグリコーゲン標的サブユニットとして機能し、その活性を調節します。グリコーゲン合成酵素を活性化し、グリコーゲンホスホリラーゼ活性を低下させ、グリコーゲン分解を制限します。さまざまな種類の細胞で過剰発現すると、基礎グリコーゲン合成およびインスリン刺激によるグリコーゲン合成が劇的に増加します。類似性:1つの CBM21 (炭水化物結合タイプ 21) ドメインを含みます。サブユニット:PP1 の PPP1CC 触媒サブユニットと相互作用し、グリコーゲンと会合します。グリコーゲンホスホリラーゼ、グリコーゲンシンターゼ、および PP1 活性の制御に必要なホスホリラーゼキナーゼと複合体を形成する。また、EPM2A/ラフォリンとも相互作用する。

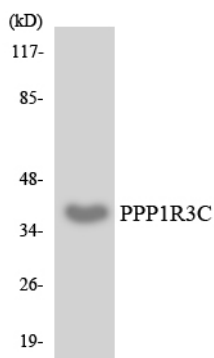
## 研究分野

インスリン受容体;

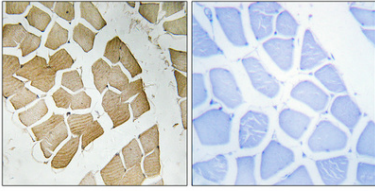
## 画像データ



PPP1R3C 抗体を用いた HepG2 細胞、HeLa 細胞、COS7 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



PPP1R3C 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト骨格筋の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高温高圧トリス EDTA (pH8.0) を用いた。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。